

国を動かしたのは、みんなの声

～昨年取り組んだVOICEより～

コロナ禍でいつも以上に「換気」をすることがおこった日々を約2年過ごしてきました。今まで来なかった苦情も来るようになり、やはりプレハブでは限界かなと感じています。

最近では窓を閉めていても苦情が来ます。「防音」に関して設備や仕様が欲しいです。



子どもた

ち同士のふれあいが生活の一部である学童。おやつも離れて……。じゃれあいも止められ、体制もままならない中で、人手があればできる行事も実現できず、子どもたちにとってはガマンの毎日です。

「どうせできんでしょ」もよく聞く言葉に……。子どもたちに「あきらめる」ばかりを経験させたくありません。

指導内容研究交流集会

今年も指導内容研究交流集会（指内研）を開催します。

昨年は、ZOOMで全体会のみの開催でした。しかも、報告提案している方の顔だけ写っている、という形式でした。集会後に、「やっぱり、保育のことを話したい」「分科会を開いてほしい」「いろんな方の話が聞きたい、会いたい」などの声がたくさん寄せられました。

執行部として、何とか午後の分科会までできないか、と検討を進めています。

開催日は、

2022年5月22日(日)

ということは決まっており、会場は労働会館を予約済みです。

コロナの状況を見ながら、開催方法、内容などを決め、3月中にはお知らせできるようにしていきます。



私の学童保育においては、この間学校の学級閉鎖が続く、更に職場に置いて、実際感染者が発現し、市からの要請・指導を受け4日間閉所となるなど、子どもたちも父母も職員も大変。不安な状況の中毎日それでも登所・出勤をいている。換気・除染のであるが、密集せずにゆとりをもって送れる本建築の施設を切に望みます。

名古屋市の

学童保育所で働いています。実際に職員の中からも感染者がでました。現場の職員としてあらゆる感染対策はしてきたつもりですが、名古屋市のプレハブ・ワンルームの専用室では新型コロナウイルスは防ぎきれません。公的責任でなんとかしていただかないと子どもたちの安全・安心は守りきれません。